

K.I.S.S.定例会 第2回目のご案内

講師 瀧野 裕行 先生 (NGSC、JIADS Study Club Osaka 会長)

演題 開業医の目指すペリオ&インプラント治療

開業して16年が経ち、振り返ると歯科界を取り巻く状況も大きく変化した。

とりわけ、歯周治療やインプラント治療の分野においては飛躍的な進歩があり、適応症の拡大とともに患者のニーズも多様化している。またその反面、トラブルや訴訟なども急増しており、昨今のNHK・新聞等の報道は、歯科医師にとっては逆風と言えるかもしれない。すなわち、今後ますます患者は、より厳しい目をもって歯科医院を選択し、我々は選ばれる歯科医院作りが必要となる。

そのためには、知識や技術の向上だけでなくチーム医療にもとづいた医院力を身につけることも大切である。今も昔も歯科治療の目標は、できる限り多くの歯牙を長期的に維持し、機能させることに変わりはない。しかし来院される患者の歯周疾患の罹患率は高く、その対応に苦慮することも少なくないのが現状である。それら歯周組織にみられる問題は炎症疾患だけではなく、その病態は硬組織、軟組織に様々な形で現れる。そのため、歯周治療の観点からは非外科療法、切除療法、再生療法、歯周形成外科、Implantなど数多くの術式の中から患者の失われた機能、審美の回復およびその治療結果の永続性のために長期的視野に立った治療計画の立案が重要となる。

また近年、インプラント治療は、機能性のみならず天然歯や周囲組織との調和、自然観の回復が求められるようになった。インプラント治療においても、残存歯に対する歯周病学的配慮は必要不可欠なものであり、歯周治療における考え方やテクニックはインプラント治療と共通する点が多く、従来の歯周治療の延長線上にあるものと考えられる。また歯を喪失すると歯槽骨や軟組織は委縮し、インプラント治療を必要とする多くの症例では、硬・軟両組織の増多が必要となる。このような場合においても、歯周治療で用いてきた歯肉移植やバイオタイプの改善、歯槽堤保存術などが有効な手段となる。

今回、開業医の目指すべき歯周治療やインプラント治療について再考し、症例を供覧させていただき、先生方の今後の臨床に少しでもお役に立てれば幸いです。

医療法人裕和会 タキノ歯科医院
理事長 瀧野 裕行

略歴

- ・ 1991 朝日大学歯学部卒業
- ・ 1991 寺本歯科医院勤務
- ・ 1995 夙ノ歯科医院開設
- ・ 2006 医療法人 裕和会 夙ノ歯科医院開設
- ・ 朝日大学歯学部 非常勤講師 (歯周病学講座)
- ・ JIADS 講師 (ペリオコース・ペリオインプラントアドバンスコース)

学会

- ・ 日本臨床歯周病学会 認定医
- ・ 日本口腔インプラント学会会員
- ・ 日本歯科審美学会会員
- ・ AAP 会員
- ・ AO 会員

スタディクラブ

- ・ ジアズ スタディクラブ大阪 会長
- ・ NGSC 副会長
- ・ OJ 正会員